

## 令和6年8月市長定例記者会見

日時：令和6年7月31日（水） 午前10時～

場所：射水市役所会議室401

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、射水CATV、  
庄東タイムズ・ホットライン小杉

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、未来創造課長、学校教育課長  
生活安全課長、子育て支援課長、環境課長

Q1. 「のるーと射水」の実証運行期間はいつまでか。

A1. 今回、射水市北東エリアで行う「のるーと射水」の実証運行期間は具体的に設定していない。本格運行の開始は、実証運行を始めてからおおむね3か月間の実証運行で、車両が到着するまでの待ち時間や運行台数への習熟度などを検証し、より良い運行になるように見直してから行いたいと考えている。

Q2. 年内に本格運行に移行するのか。

A2. 南東エリアでの導入は3、4月だったこともあり、それを考慮すると同時期の可能性はある。だが、現時点では確定しておらず、お答えできない。

Q3. 「のるーと射水」の効果と、今後について市内全域展開を考えているのか教えていただきたい。

A3. 市内南東エリアではすでに「のるーと射水」、北西エリアは「べいぐるん」、南西エリアではデマンドタクシーに取り組んでいる。今回、デマンド交通が未導入の北東エリアで実証運行することとした。南東エリアでは、非常に高評価をいただいていると思っている。ただし、北東エリアは南東エリアと異なり、集落が点在しているエリアだ。実証運行を通して、南東エリアの効果が引き続けられるのか、北東エリアでは違った効果、課題があるのか検証し、結果を踏まえて他エリアの導入について検討していきたい。

Q 4. 港町で公費解体が本格化するのに時間を要したことへの見解を教えてください。また、港町で意見が挙がっている災害公営住宅の建設について、検討状況はどうなっているか。

A 4. 公費解体は6月末から始まっているが、液状化被害が顕著な港町では、7月末に本格的に始まった。少し時間がかかっているという話だが、確かに本来であればもっと速やかに公費解体ができれば良かった。申請後に状況確認をし、発注業務を整えなければならず、他市もおおむね6月下旬ぐらいからの開始となっている。引き続き申請いただいている住宅もあり、速やかに公費解体に取りかかることができるよう進めていきたい。また、相談などもいただいているが、環境を少しでも早く整えられるように、取り組んでいきたいと思っている。

港町エリアで開催した説明会において、災害公営住宅の整備に関するお話もいただいた。まずは、港町で行ったボーリング調査の分析を行い、報告された中間的な内容を地域の皆さんに説明したい。また、地域の皆さんの意向を再度アンケートなどで確認もさせていただきたい。

液状化対策で面的な整備を行っていく場合、大きな事業費をかけて再整備を図っていくことになる。災害公営住宅が可能かは不透明だが、居住ニーズが高いことが分かれば、類似のものを整えていくことも必要だと思う。意向を伺いながら地域の皆さんの思いにできるだけ寄り添った復旧・復興をしていきたいと考えている。

Q 5. ボーリング調査の結果で公表できるものはあるのか。

A 5. 細かい数字等については未確定だが、効果的な工法や対象エリアによってかかる事業費がどれくらいかといった大まかな推計が中間報告である。

Q 6. 能登半島地震対応検証委員会の所感を教えてください。

A 6. 検証委員会は、委員の皆さんからそれぞれ意見をいただき、地震から7か月経て見えてきた市民の避難行動、避難所の開設運営に関する課題などを踏まえた計画の見直しや防災対策、対応強化に活かす目的で開催した。今後、第2回、3回と回を重ねながら、取りまとめたものを提案して

いただくことになると思う。

Q 7. 9月補正予算で災害復旧関連のものが入ると思われるが、柱になりそうなものや規模感について教えていただきたい。

A 7. すでに当初予算や6月補正で、災害復旧に関する予算は議決をいただいているものもあるが、国の査定を受け、予算をつけて発注する業務も現在進行形で進めている。9月定例会で提案する内容は、現在精査中であり、細かいお話しはできない。

下水道に関しては、既に約5,3キロ分の復旧予算を議決いただいているが、被害拡大を確認しており、管への影響は当初議決いただいた倍を超える見込みである。再度、国の査定を依頼しており、9月に追加予算をどこまで計上するのか精査しなければならない。

Q 8. オリバースポーツフィールド射水の復旧工事はいつ終わるのか、また、合宿、大会等の開催で盛り上がっていたと考えられるが、影響をどうお考えか。

A 8. 6月定例会で予算を議決いただき、発注に向けて準備を進めている。予定では今年度末までに復旧を終え、新年度に再オープンしたいと思っている。

本来であれば、合宿や大会で多くの児童、選手の皆さんにご利用いただき、市の関係人口として様々な取組や活性化、賑わい創出に繋げていきたいと考えていたところだった。使用できない状況が続き、その影響は非常に大きい。まずは復旧が大事であり、しっかり進めていきたい。

Q 9. 修復が終わった場所から利用できるようにするべきではないかという意見があったが、どうか。

A 9. 復旧の方法を検討させていただいたが、全面的に影響を受けていることから全面復旧を行う。2面あるため、1面終わったら1面分だけ使えるようにするのかということは、施工事業者と協議していく必要がある。基本的には、ニーズや安全性の確保を踏まえながら判断していく。

Q 1 0. 太閤山パスコの改修に伴う臨時休業について、買い物難民への施策はあるのか。

A 1 0. 太閤山パスコは、改修しリニューアルオープンに向けて、一旦営業を中断されると認識している。「のるーと射水」を活用し、周辺エリアのお店を利用していただくことになるのではないかと考えている。地域の皆さんの意向を伺い、必要な対応・対策に取り組んでいきたいと思う。

Q 1 1. 議会で県が予算を付けた補助事業（宅地液状化等復旧支援事業）について、問い合わせや申請はあるか。

A 1 1. 相談等は担当課で既にいただいている。内容等は県の事業であり、細かい要件などを整え、速やかに執行できるようにすると聞いている。申請に関しては、担当課でご確認いただきたい。

Q 1 2. 市長は新湊地区の復興ビジョンをお持ちか。

A 1 2. 新湊は液状化で被害を受けたエリアであり、液状化からの復旧、安全に住める状態にすることが重要だと思う。併せて、地域のコミュニティをどう守っていくか、地域の皆さんからご提案をいただいていると思っている。市長のビジョンや思いがどうなのかについて、ないわけではないが、軽々しくこうやります、ああやりますというものでもないと思う。私や行政の思いでビジョンを作っても、地域の皆さんのニーズに合っているのかはすり合わせが必要である。

加えて新湊エリアは、人口減少、空き家の増加に歯止めがかからない状況だ。内川エリアのブランド価値を高めながら、地域活性化、経済の好循環を生み出していくために、専門家からご意見を伺う会議なども設置させていただいた。地域全体で価値を高め、地域資源を生かしながら活性化や復旧・復興に繋げていけるような取組を進めていきたい。